

コリン・コバヤシさん来日 広島で著書を語る

「国際原子力カロビーの犯罪」 チェルノブイリから福島へ

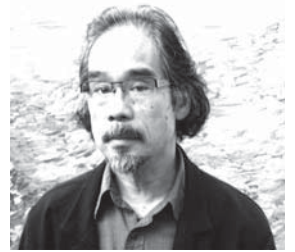
10月21日(月)

18:00 ~ 20:30

広島平和記念資料館東館会議室 2

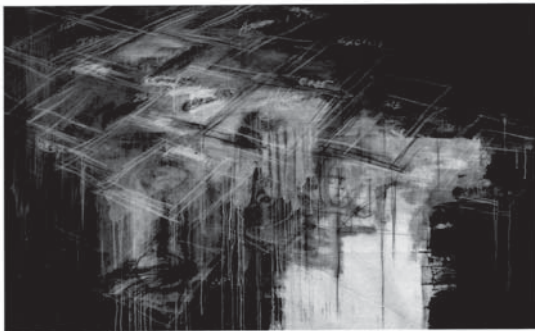
広島市中区中島町 1-2 082-241-4004

参加費：700 円



コリン・コバヤシさんのプロフィール

フランス在住。美術家、ビデオ作家、フリージャーナリスト、著述家。1970年代から日仏の軍事・民事の反核運動に関わる。著書・共著書に『国際原子力カロビーの犯罪』『ゲランドの塩物語』（渋沢クローデル賞現代エッセイ賞受賞）『市民のアソシエーション』等、訳書・共訳書に P. ブルデュエ+H. ハーケ『自由-交換』、ジョゼ・ボヴェ他『パレスチナ国際市民派遣団』等多数。



国際原子力カロビーの犯罪

チェルノブイリから福島へ

コリン・コバヤシ

“安全宣言”は本当か？

原子力カマラの“核”フランス——

その“実像”と、“科学の真実”に背いた、世界の原子力カマラたちの“実態”に迫る。

ベトナムやウクライナの住民や医療の場を巡り、福島における健康被害もはらさないで、国連やWHOも認めた“国際原子力カロビー”の正体、彼らの主義は反核に於けるのか？ 科学・疫学的な意志への「裏切り」を追究し、未来の生命たちのために、そのシステムを根絶なく追跡する。

「国際原子力カロビー」は、チェルノブイリ以来、存立の危機の中で、チェルノブイリの実相を否定することに成功したのです。その中心になったのが国際原子力機関 (IAEA) や低線量被曝を事実上、認めない ICRP です。

低線量被曝の否定には、広島・長崎の不十分な部分的データがすべての真実であるかのように使われたのです。放射能を恐れる人は、<放射能恐怖症>と見なされました。

コリンさんはこの著書で、チェルノブイリで服従を強いられる構造を作り、福島を支配しつつあるものは何か、隠された事実を明らかにし警告を発しています。お誘い合わせの上、どうぞご参加ください。

共催：第九条の会ヒロシマ、上関原発止めよう！広島ネットワーク

グローバル化を問う広島ネットワーク

連絡先：〒734-0015 広島市南区宇品御幸 1-9-26-413

tel：070-5052-6580 (藤井)

